

20067

急性心筋梗塞に対してエキシマレーザー冠動脈形成術が有用であった1症例

症例は63歳男性、胸部痛で近医を受診し急性心筋梗塞(AMI)の疑いで当院に搬送された。当院入院時胸痛が持続しており心電図上ST上昇を認め直ちに冠動脈造影(CAG)を施行した。CAG所見は#3 100% #5 75% #6 100% #13 90% #14 90%が認められ右冠動脈が責任病変のAMIと診断された。また左冠動脈にも有意狭窄が認められ、左冠動脈は後日CABGの予定とし右冠動脈に緊急PCIを施行した。CAGにて多量の血栓が想定されたためエキシマレーザー冠動脈形成術(ELCA)にて血栓蒸散を試みた。ELCAシステムはSpectranetics社製CVX-300コンソール、カテーテルはVitesse-Cos RX 1.4mm(同心円タイプ)を使用した。ELCAの初回設定は出力(Fluence)45ml/mm²、繰り返し数(Rate)40pulses/secで施行したのち最大出力であるFluence 60ml/mm²、Rate 40pulses/secで施行し良好な血栓蒸散効果がみられた。その後Xience Prime 3.0x38mmを#2から#4PDまで2本留置しslow flow / no reflowなくTIMI3を確認し手技を終了した。従来では造影剤除去、血液除去のために生理食塩液を注入していたが、重症不整脈出現の可能性や血行動態が不安定な症例での使用を考慮し2013年5月よりラクトリンゲル液の使用を開始し安全面において有効と思われた。今後は準備がやや煩雑なためAMIの患者が搬送されたときにはELCAシステム(CVX-300コンソール)をカテ室内に速やかに搬入し、システムを起動しておくなどの準備段階における改善も必要と思われる。ELCAはAMIにおける血栓多量症例に対して有用であると示唆された。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分~ 時 分

受付番号

演題番号